



## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」より ～結果の分析と、改善に向けた取り組みについて～

平成27年度の「全国学力・学習状況調査」は、4月21日（火）に市内の小学校6年生（27校1,324人）と中学校3年生（10校1,297人）を対象に実施されました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

本調査が児童生徒の学力の全てを表すものではないことには留意する必要がありますが、教育施策や各学校における指導の充実・改善に役立てることが本調査の目的であることから、結果を踏まえて取り組みを進めてまいります。

また、今年度につきましては、児童生徒全員を対象とする調査になって3年目が経過したことから、経年比較から見えた桑名市の結果分析もあわせてお知らせします。

### 教科の調査結果

	小学校調査					中学校調査				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	★	A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	★
全国 平均正答率	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%	60.8%	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%	53.0%
桑名市 平均正答率	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや高い	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ
三重県 平均正答率	68.0%	65.3%	74.8%	44.1%	59.2%	75.0%	64.3%	64.3%	40.6%	51.9%

※平均正答率については、全国、三重県、桑名市いずれも公立校のみの結果を集計した値です。

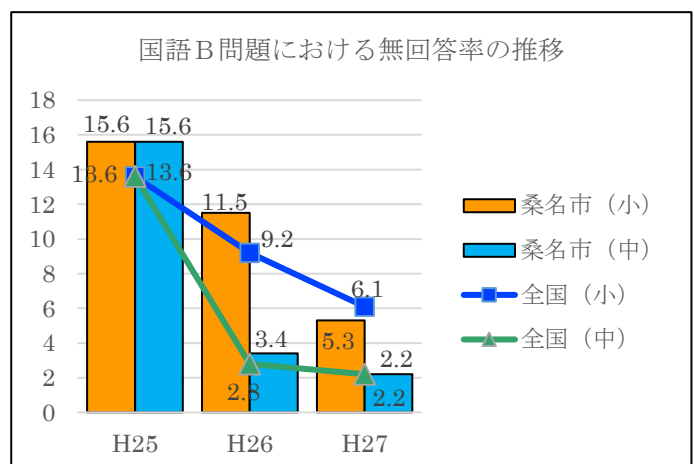
※平均正答率概要については、全国と桑名市の差違が±2.0ポイント以内を「ほぼ同じ」、±2.0～4.0を「やや高い・低い」と表しています。

★理科の調査については「知識」と「活用」の問題が一体的に出題されました。

### 【無回答率について】

右のグラフは、国語B問題における過去3年間の無回答率の推移を表しています。以前の桑名市の結果からは、全国と比較しても無回答率が高く、「難しい問題に出会った時に初めから諦めてしまう」「間違えることを恐れ、初めから回答しない」子どもが多かったことが考えられます。この無回答率が減少していることは、学習に向かう力・学習意欲の高まりと捉えることができます。

※算数B問題・数学B問題でも同様の傾向が見られます。



## 【小学校】

### 小学校 国語

#### 強み

- ・ A問題の漢字を読む問題では、全ての問題で正答率が9割以上で、出題された漢字を正しく読むことができています。
- ・ 説明する文章の書き方の工夫として適切なものを選ぶ問題で9割近くの児童が正答できています。

#### 弱み

- ・ コラムの中で筆者が引用している言葉を書きぬく問題で、正答率が16.6%と低く、課題があります。(右図参照)
- ・ 間違えが多かった問題には、「引用」「根拠づける」「必着」などの熟語が使われていることから、これらの語彙について正しい知識を身につけることが必要です。
- ・ 目的や意図に応じ取材した内容を整理しながら記事を書く問題では、全国の正答率より高かったものの、正答率が36.7%と低く、課題があることが分かりました。

#### 経年比較からみえる特徴

- ・ 国語B問題の平均正答率では、全国平均正答率との差において改善が見られ、全国並みとなりました。

5

次は、読書のことについて書かれた新聞の「コラム」(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この「コラム」は、全体の内容が1から5までのまともまりに分かれています。これをよく読んで、あとの「1」と「2」の問いに答えましょう。

【コラム】

記事の中の▼は、まともまりを表す印です。

1▼四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。2▼子供のころ、宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。3▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4▼先日、「セロ弾きのゴーシュ」を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事なえがき方やたくみな描写に、賢治のすばらしさを実感した。5▼世界の人が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

※1「描写」…書き表すこと。  
※2「童心」…子供の心。

平成27年度全国学力・学習状況調査 国語A問題より

### 小学校 算数

#### 強み

- ・ A問題における「数と計算」の領域では、全国平均正答率よりやや高く、基本的な四則計算について概ね理解できています。また、「量と測定」の領域についても全国平均正答率よりやや高くなっています。
- ・ 式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解する問題では、およそ9割の児童が正答することができています。
- ・ 平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは相当数の児童ができていました。また、2つの三角定規を使って作図するときに用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ問題の正答率は60.0%とやや課題と捉えられますが、全国の正答率より5.4ポイント高い結果となっています。

#### 弱み

- ・ 比較量と割合から基準量をもとめる問題では、正答率が14.2%となっています。(右図参照)
- ・ B問題の長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題は、12.3%となっています。

#### 経年比較からみえる特徴

- ・ 全国平均との比較においては、毎年全国並みです。全国的に見ても、B問題について依然課題がありますが、桑名市についても同様の傾向が見られています。

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480 mLです。

増量前のせんざいの量は何 mL ですか。求める式と答えを書きましょう。



平成27年度全国学力・学習状況調査 算数B問題より





## 中学校 数学

### 強み

- ・ A問題においては、全国の平均正答率よりやや高くなっています。
- ・ A問題「同位角の意味」「関数の意味」「比の意味」の理解を確かめる問題について8割～9割の生徒が正答できています。

### 弱み

- ・ 数量の関係を文字式で表す問題の正答率は22.6%となっています。

- ・ 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ問題の正答率は23.3%となっています。
- ・ 映像の明るさを2倍にするための投影画面の面積の変え方を選び、その理由を数学的な表現を用いて説明する問題において正答率が10.6%となっています。

### 経年変化から見える特徴

- ・ 全国との比較において、数学A、数学Bともに徐々に高まりが見られました。また、全国的にも桑名としてもB問題について依然として課題があります。

1 健治さんの学校では、新入生歓迎会のときに、体育館で部活動紹介の映像を流します。映像は、プロジェクターでスクリーンに映し出されます。そこで、健治さんはプロジェクターの置き場所を決めるために、プロジェクターについてインターネットで調べました。

健治さんが調べたこと

投影距離 (m)	投影画面の大きさ		
	高さ (m)	幅 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

○ 投影画面の大きさは、投影距離によって変わる。  
 ○ 投影画面の形は、調整されて、いつも長方形になる。  
 ○ 投影画面の高さや幅は、投影距離に比例する。

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 投影距離を  $x$  m、投影画面の高さを  $g$  m とするとき、 $g$  を  $x$  の式で表しなさい。

(2) スクリーンの高さは4.8 m、幅は5.6 mです。投影画面を、スクリーンからはみ出ないようにして、できるだけ大きく映し出すためには、投影距離を何mにすればよいですか。下のアからエまでの中から正しいものを選んでください。

ア 5 m  
 イ 6 m  
 ウ 7 m  
 エ 8 m

(3) 健治さんは、映像が暗くて見にくいのではないかと気になりました。しかし、プロジェクターの光源の明るさを変えることはできません。そこで、映像の明るさについて調べると、映像の明るさと投影画面の面積の関係は、次の式で表されることがわかりました。

$$\left( \begin{array}{l} \text{映像の} \\ \text{明るさ} \end{array} \right) = \left( \begin{array}{l} \text{プロジェクターの} \\ \text{光源の明るさ} \end{array} \right) + \left( \begin{array}{l} \text{投影画面の} \\ \text{面積} \end{array} \right)$$

このとき、映像の明るさを2倍にするにはどうすればよいですか。下のア、イの中から正しいものを選んでください。また、それが正しいことの原因を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。

ア 投影画面の面積を2倍にする。  
 イ 投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にする。

平成27年度全国学力・学習状況調査 数学B問題より

赤いテープの長さは  $a$  cmです。

赤いテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍です。

白いテープの長さを  $a$  を使って表すと…?



## 中学校 理科

### 強み

- ・ 8割以上の生徒が塩化ナトリウムを化学式であらわすことができます。

### 弱み

- ・ 背骨のある動物をせきつい動物と回答する問題では53.9%の正答率であり、全国の正答率より10ポイント低い結果となっています。
- ・ 他者の考察をもとに、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明する問題の正答率が17.9%となっています。
- ・ 自然現象や技術の仕組みを想定した実験において、実験中の操作と想定した自然現象や技術の仕組みなどがどう対応しているかを理解していなければできない問題の正答率が低くなっています。
- ・ 半分以上の生徒が正答している問題でも、無回答率が20%以上と高いものもあることから、理解できている生徒と全く手が付けられなかった生徒の二極化の傾向があります。

NaCl



# 教科調査の結果を受けての今後の取り組み ～大切にしたい5つのポイント～



## ○基礎・基本の確実な定着をめざします。

安心して学べる学習環境を作り、その中で、全ての子どもたちへの分かりやすい授業を進めます。学年に応じた繰り返しの学習活動を取り入れることや、家庭学習の充実などに取り組むことで、基礎・基本の学習の力を身につけます。

## ○活用力育成のための授業改善に取り組みます。

知識・技能を、実生活の様々な場面に活用する力が重要視されています。知識を身につけるだけでなく、学んだ知識を基盤として活用する力を育成するための課題を、授業に取り入れるなどの授業改善を行います。

## ○「書く」活動・「話し合う」活動を中心とした言語活動の充実を図ります。

言語は知的活動やコミュニケーションの基盤であることから、全ての教科・学習活動において培われる必要があります。国語科で培った能力を基本として、全ての教科・学習活動において、子どもたちの発達段階に応じた言語活動の充実を図ります。

## ○めあて・振り返りを意識した授業改善に取り組みます。

授業の冒頭にめあてやねらいを提示したり、授業の終わりに学習を振り返る活動を取り入れたりする授業改善に取り組みます。こうした活動を通して、子どもたちや教師にとって、毎時間の授業の達成目標が明確になると考えています。

## ○調べ学習や発表する活動の充実を図ります。

総合的な学習の時間を中心にして、課題解決のために探究する活動の充実を図ります。自ら調べて発表する場面を増やすことで、どんな資料から、必要な情報を読み取ればいいのか、また、どんな風に資料を使って伝えるのが効果的なのかなどを考えます。